

探訪 新 ライフ スタイル

先月、人口25万人未満の都市を対象にした英誌「2021年輝く小さな街ランキン

福岡・糸島、小さな街世界3位に



古くからの景勝地が、フォトジェニックな新スポットに（福岡県糸島市）

都市と自然、程よく融合

まりだった。同市を再訪した目的は、人口10万人の地方都市が実証した活力の手がありを知るために、その福岡市から車や電車で約3時間の距離にある。答えは「若い人が魅力と感じるライフスタイル」にありました。

30分の糸島市には、自然い
都會が混じり合う生活がま
った。玄界灘の安くて新鮮
な魚介類、糸島ブランドト

いというアーミリーが増え、
続けた。18年には九大伊都
キャンパスが開校し、1万
6000人の学生が流入し

は「日
はれ、
白い鳥

「日本の夕陽百選」に選
青い空と海に浮かぶ
鳥居とのコントラスト
を撮影する人が福岡市

島のよな「デュアルライフ」が可能かどうか。
一方を追求すると他方が犠牲になるトレードオフで

して有名になつた豚・牛
鳥の畜産物、新鮮で安全な
農産物が手に入る自然の興
味がある。市内には18ヶ
所の産直市場があり、中でもJA直営の「伊都菜彩(いと
ときいさい)」は日本一の
売り上げを誇る。

た。高齢化が深刻化した街
に若者が暮らす新たなエンジニア
ルギーが加わり、定住人口
増が続く。

ET LIVE」や「祭屋」など、様々な国際芸術祭など、様々なクリエーティブなイベントが開催されるなど、生活の質の高さが育まれ、今や糸島は「移住したい街NO.1」になった。

なことか、妙にせすに共存しながら高め合つていけるかがポイントとなる。

移り住む人たちに寛容
街の受け入れ体制もあり
若い農家やクラフト作家
古民家をリノベーションして
飲食店や雑貨店を始め
若者、自然環境に恵まれた
糸島暮らしで子育てを楽しむ

海岸沿いには1990年から開放的なカフェを經營している「ビーチカフェ・サンセット」を始め、糸島グランデュアルメを堪能できるカフェやレストランが連続して現れる。夫婦岩のある二見ヶ浦に

化、人口減少、地域経済悪化が深刻な課題だが、光明としてコロナ禍で増えた大都市圏から地方都市への移住動向だ。若い人が魅力と感じるライフスタイルの決め手となるのは、キ

すだ。糸島ティアには定住人口増、交流人口増、地域経済循環増を実現する地方都市再生の处方箋が詰まっていた。

90年代から続く野外音楽
フェスティバル「SUNS」を始め周辺都市から押し寄せ
る。

はなく「都市と自然」経済成長と環境保全「仕事（オン）と遊び（オフ）」「旧住民と新住民」といつ

は「日本の夕陽百選」に選ばれ、青い空と海に浮かぶ白い鳥居とのコントラスト風景を撮影する人が福岡市

島のような「デュアルライ
フ」が可能かどうか。